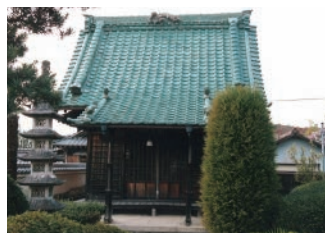


1 東光寺

薬王山東光寺は殿様街道沿いに所在する寺院であることから、尾張旭市印場の良福寺と共に藩主の休憩場所とされていました。臨済宗妙心寺派の寺院で、定光寺の末寺です。永正元(1504)年雪心和尚による開山と伝えられています。本尊は観世音菩薩、また秘仏として行基作と伝えられる木造薬師如来があります。また薬師堂には、水野で盛んに焼かれていた緑釉瓦が用いられています。



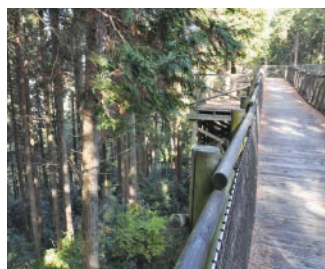
2 殿様街道

尾張藩主の行列が通ったことから名づけられました。尾張藩初代藩主徳川義直が葬られた定光寺への墓参りの道として、また、水野で行われた狩りのために通う道でもありました。初代尾張藩主義直は、藩主として領国内の民情を把握するために鹿狩や鷹狩を盛んに行いました。特に水野には元和8(1622)年以降20回以上訪れており、その際に訪れた定光寺の景色に感銘を受け、自らの墓所に定めたともわれています。名古屋城から定光寺までは、約6里(24Km)の行程で、瀬戸市内では「中水野」交差点から水野大橋を渡って東光寺、そこから丘陵地帯に入って石坂峠までの区間が現在も道として残っています。特に丘陵地帯に入り、地道となる部分から名城大学演習林までの間は、急坂部分には丸石による石畳が敷かれるなど、当時のままの姿を見ることができます。



3 定光寺自然休養林

定光寺南側の丘陵地は、林野庁の管理する国有林がレクリエーションの森として整備されています。標高50mから327mの丘陵地約715haにシイ、カシを主体とする自然林(暖帯照葉樹林)とスギ、ヒノキ、クロマツなどの人工林が広がっています。林内には「ふれあいの径」「まなびの径」「こもれびの径」などの遊歩道が整備され、林内回廊では、車いすでも散策できる木道が設置されています。また、「樹木見本林」では外国樹種を含め75種の樹木が植栽されています。



Check 森林交流館

休養林の情報発信施設。森林や林業について、木材利用に関する各種の展示がされています。屋外には森林鉄道の機関車も展示され、樹木とのふれあいを通じて森林についての理解を深めることができます。



「山の中でも水野は城下、地方・山方両役所」

これは、水野地区で謡われてきた民謡です。地方とは水野代官所、山方とは御方奉行所のことです。江戸時代の尾張藩にとって重要な機関である二つの役所がこの水野の地にあり、名古屋城下と直接つながる場所であったことを謡っています。この地がこうした重要な場所となるきっかけは、尾張藩初代藩主徳川義直が鷹狩のためにたびたびこの地を訪れたこと、その墓所が定光寺に定められたことにあります。

名古屋城から殿様街道~定光寺への道のり

定光寺は建武3(1336)年に臨済宗の覚源禅師(平心処斎)により開山された古刹です。伽藍の建つ山腹からは、庄内川から遠くは名古屋城まで眺望することができ、徳川義直はこの景観に感銘を受け自らの墓所をここに決めました。墓所である「源敬公廟」が定光寺に置かれて以来、歴代尾張藩主の墓参のために街道が整備されました。この街道が「殿様街道」です。街道は名古屋城から瀬戸街道を経て、尾張旭市砂川から新居町、森林公園を通り、瀬戸の中水野に至ります。中水野には藩主が休憩したとされる東光寺があり、そこからは山道となり、石坂峠までの急坂には丸石による石畳など当時の風景がそのまま残っています。殿様街道の通る山道は、定光寺自然休養林の中を通り、森林浴を楽しみながら定光寺公園さらには定光寺へと至ります。

明治時代、明治神宮社叢を設計した「日本公園の父」と呼ばれる本多清六は、定光寺周辺を自然公園とする計画をたてています。桜や紅葉の季節に多くの人々が訪れる現在の定光寺公園は、瀬戸を代表する観光スポットとなっています。また、定光寺公園から庄内川への散策路は、急峻な渓谷沿いの景観を楽しみながら庄内川に架かる城嶺橋へと至ります。こうした自然が生み出す造形は、「尾張名所図会」にも描かれた「奇観」の地として、多くの人々をこの地へ誘ってきました。

